

人材養成および教育研究上の目的		
地球圏科学専攻においては、理学研究科の理念のもとに、地球圏の自然科学的な諸問題について、物理学、化学、地球科学、生物学の各領域にわたる教育と研究を行い、博士課程前期では、総合的・歴史的な視野を持つ専門職人、博士課程後期では、総合的・歴史的な視野を持つ自立した研究者を養成する。		

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）
<博士課程前期>		
地球圏科学専攻では、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（理学）の学位を授与する。	地球圏科学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	地球圏科学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
知識・理解 【学修成果の目標】 ・地球圏科学全般の基礎について理解できる。（DP1） ・専門分野の基本的な知識を身に付ける。（DP2） 【到達指標】 ・地球圏科学全般の基礎について理解している。（DP1） ・専門分野の基本的な知識を身に付けている。（DP2）	【教育課程の編成】 6つの専修部門がそれぞれ設置した講義科目・実験科目、および特論科目を中心として、地球圏科学の深い学識を身に付ける。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 様々な特論講義や研究室ゼミ、文献調査等を組み合わせ、深いつとも幅広い地球圏科学の知識を修得する。 【学修成果の評価方法】 講義レポートや輪読、論文抄読における発表、研究成果の発表等の内容から理解度を評価する。（DP1・DP2）	【求める学生像】 一定水準以上の学力があつて、かつ地球圏における諸現象に興味があり、その仕組みの理解に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。
技能 【学修成果の目標】 ・地球圏科学の各分野における研究手法を身に付け、計画的に研究を遂行できる。（DP3） ・地球圏科学の論理的思考方法を身に付けている。（DP4） ・研究成果を学会で発表できる。（DP5） 【到達指標】 ・実験や野外活動、データ解析等の技術を身に付けている。（DP3） ・得られた研究結果を論理的に考察し、研究成果を発表できる。（DP4・DP5）	【教育課程の編成】 6つの専修部門がそれぞれ設置した講義科目・実験科目を中心として、地球圏科学の研究手法や論理的思考方法を身に付ける。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 実験や野外活動、データ解析、レポート作成、発表等を通じ、研究に必要な技能や論理的思考力を身に付ける。 【学修成果の評価方法】 研究室での日常的な議論や研究進捗状況の把握、ゼミ発表会などを通じて評価する。（DP3・DP4・DP5）	【入学者選抜の在り方】 一般入試では、試験による学力評価と面接評価を組み合わせて、優秀な学生を選抜する。 特に成績優秀な学部学生には、3年次で飛び級制度、4年次では推薦入学制度を設けている。 自然科学全般に関する広い見識の重要性から、他大学・他学部の学生や社会人・外国人留学生も積極的に受け入れる。
態度・志向性 【学修成果の目標】 ・地球圏科学の深い学識や研究手法を主体的に修得しようとする態度を持っている。（DP6） ・修得した地球圏科学の専門的知識や技能を生かして、実社会に貢献しようとする志向性を有している。（DP7） 【到達指標】 ・地球圏に関する幅広い分野の研究や新しい知見を自ら学ぼうとする姿勢がある。（DP6） ・地球圏科学の専門的知識や技能を分かりやすく人に説明することができる。（DP7）	【教育課程の編成】 6つの専修部門がそれぞれ設置した講義科目・実験科目を中心として、他専攻の科目の受講も含めて、主体的・積極的な態度や志向性を身に付ける。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 課題に取り組む真摯な姿勢を養い、地球圏科学の深い学識や幅広い知識を修得して、社会に貢献しようとする態度を身に付ける。 【学修成果の評価方法】 日常的な研究遂行における、主体的な工夫や態度、実験・野外活動に取り組む態度や姿勢、レポートの書き方・内容、ゼミ発表の内容等を評価する。（DP6・DP7）	
<博士課程後期>		
地球圏科学専攻では、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（理学）の学位を授与する。	地球圏科学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	理学研究科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
知識・理解 【学修成果の目標】 ・地球圏科学に関する新たな知見が得られる研究を自立して遂行する能力を有している。（DP1） ・指導的立場で専門的な職業に従事できる能力を有している。（DP2） 【到達指標】 ・研究成果が地球圏科学の新たな知見を含む。（DP1） ・査読付き学術誌に論文が掲載されている。（DP1・DP2）	【教育課程の編成】 6つの専修部門がそれぞれ設置した研究指導科目、および特論科目を中心として、地球圏科学の深い学識を身に付ける。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 後期課程ではリサーチワークにより重点が置かれるが、外部講師による特論科目も取り入れ、地球圏科学の他分野の最先端の研究動向についても学ぶ。 【学修成果の評価方法】 研究レポート、ゼミ等における進捗状況報告等の内容によって評価する。（DP1・DP2）	【求める学生像】 地球圏における諸現象の仕組みの解明に強い意欲を持ち、探求心と目標とする研究を遂行するための能力のある人材を受け入れる。 地球圏における諸問題解決に向けて新しい考え方で研究を遂行する意欲のある社会人・外国人留学生も受け入れる。
技能 【学修成果の目標】 ・地球圏科学の先行研究の成果や研究手法を把握し、独創的な研究成果につなげることができる。（DP3） ・研究成果を学会で発表できる。（DP4） 【到達指標】 ・地球圏科学に関する新たな知見を得ること、更なる価値につなげることができる。（DP3） ・筆頭著者として学術誌に論文を投稿できる。（DP4）	【教育課程の編成】 6つの専修部門がそれぞれ設置した研究指導科目を中心として、指導教員の指導を受けながらも、独自性を発揮して地球圏科学の研究を進める。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 主指導教員の指導を受けるとともに、副指導教員の助言も受ける。グループのゼミ等において他の教員・学生と議論することで理解を深める。 【学修成果の評価方法】 研究レポートやゼミ発表における独自性や新規性、研究者としての自立性を評価する。（DP3・DP4）	【入学者選抜の在り方】 修士論文等の内容の精査と面接審査等によって、探求心と目標とする研究を遂行するための能力の有無を見極め、かつ、地球圏における諸現象の仕組みの理解に向けて意欲的に取り組む姿勢を評価する。
態度・志向性 【学修成果の目標】 ・地球圏科学に関する研究上の課題を自ら発見し、課題解決策を立案する意欲を有する。（DP5） ・自らの研究テーマ以外にも、地球圏科学の他分野の研究者の課題や手法に興味を持っている。（DP6） 【到達指標】 ・地球圏科学の課題に向き合い、自ら解決方法を模索しつつ、計画的に研究を進めることができる。（DP5） ・研究倫理に関する規範意識を身に付けている。（DP5・DP6）	【教育課程の編成】 学位取得に向けた実験・野外活動・データ解析等を主体として自主的に研究を進めながら、研究者としての態度を身に付ける。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 学位取得に向けた自主的な研究推進と指導教員のもとのゼミナールを重視し、自然科学に関する深い知識と自立した研究者としての態度を身に付ける。 【学修成果の評価方法】 地球圏科学の専門性を深め、最先端の研究動向についても学ぼうとする積極性を評価する。（DP5・DP6） コンプライアンス意識の度合いを評価する。（DP5・DP6）	